平成24年３月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年２月10日

上場会社名	イー・キャッシュ株式会社		上場取引所　東
コード番号	3840	ＵＲＬ	http://www.ecash.co.jp
代表者	(役職名)　代表取締役		(氏名)　泉　大五郎
問合せ先責任者	(役職名)　代表取締役		(氏名)　泉　大五郎　(TEL)03(6823)6011
四半期報告書提出予定日	平成24年２月13日		配当支払開始予定日　－

四半期決算補足説明資料作成の有無　：有・[無]

四半期決算説明会開催の有無　：[有]・無

(百万円未満切捨て)

１．平成24年３月期第３四半期の連結業績（平成23年４月１日～平成23年12月31日）

（１）連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年３月期第３四半期	259	△21.6	△40	－	△41	－	△44	－
23年３月期第３四半期	330	70.0	△76	－	△91	－	△133	－

(注)包括利益　24年３月期第３四半期　△45百万円(－%)　23年３月期第３四半期　△134百万円(－%)

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年３月期第３四半期	△683.56	－
23年３月期第３四半期	△2,063.29	－

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年３月期第３四半期	363	307	81.4
23年３月期	436	352	78.1

(参考)自己資本　24年３月期第３四半期　295百万円　23年３月期　340百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年３月期	－	0 00	－	0 00	0 00
24年３月期	－	0 00	－		
24年３月期(予想)				0 00	0 00

(注)　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：有・[無]

３．平成24年３月期の連結業績予想（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	380	△16.0	△65	－	△65	－	△77	－	△1,180	31

(注)　直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：有・[無]

４．その他

（１） 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　：有・無
新規　ー社　（社名）　、除外　ー社　（社名）

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：有・無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：有・無
② ①以外の会計方針の変更　：有・無
③ 会計上の見積りの変更　：有・無
④ 修正再表示　：有・無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年３月期3Q	65,237株	23年３月期	65,237株
② 期末自己株式数	24年３月期3Q	ー株	23年３月期	ー株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年３月期3Q	65,237株	23年３月期3Q	64,837株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示
・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、経済状況・為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により記載の予測数値と異なる可能性もあります。尚、業績予想に関する事項は、四半期決算短信（添付資料）３ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要 …… 4
４．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（４）セグメント情報等 …… 10
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 11
（６）重要な後発事象 …… 11

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部には景気回復の兆しが見られ、企業収益も緩やかながら回復傾向を見せたものの、円高や平成23年３月11日に発生した東日本大震災の影響によって、経済の停滞や輸出の冷え込みなども予想されることから、依然として先行きの不透明感が拭えないまま推移いたしました。

このような状況下、当社グループにおきましては、当社の中核技術であるＲＦＩＤ関連技術を活用したサービスに取り組んでおります。事業分野といたしまして、安定的に成長が見込まれる医療・環境分野へのサービスの充実に取り組み、ＲＦＩＤ技術を活用したマーケティング支援業務、ＬＯＨＡＳ商標を活用した環境関連商品の販売、医療クリニック向けのサービス事業を行っております。また、当社連結子会社である株式会社ディー・ワークスによる、携帯電話、スマートフォンを中心としたアクセス解析サービスなど、従来の「受託開発型」の事業から、「積み上がり型収益モデル」への事業展開を引き続き進めてまいりました。また、オフィスの移転による賃借料の低減、人件費の削減、通信費の見直しなど、固定費の削減を継続的に実施しております。

この結果、売上高は259,059千円（前年同四半期比21.6％減）となりました。営業損失は40,904千円（前年同四半期は営業損失76,644千円）となりました。また、経常損失は41,532千円（前年同四半期は経常損失91,321千円）、四半期純損失は44,593千円(前年同四半期は四半期純損失133,777千円)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① ＲＦＩＤ事業

当社の中核技術であるＲＦＩＤ関連技術を活用したシステム構築及び保守メンテナンス等の事業を行っております。

この結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は18,156千円（前年同四半期は48,288千円）、営業利益は8,175千円（前年同四半期は営業損失10,451千円）となりました。

② 決済代行事業

当事業は、電子商取引を行うＥＣ事業者に対するクレジットカード決済処理サービスの提供並びにクレジットカード会社との加盟店契約代行及び売上代金の収納代行を行う決済代行サービスを行っております。

当第３四半期連結累計期間の売上高は8,677千円（前年同四半期は13,790千円）、営業利益は2,283千円（前年同四半期は1,620千円）となりました。

③ マーケティング事業

当事業は、主に連結子会社である株式会社ディー・ワークスにより、携帯電話、スマートフォンを中心としたアクセス解析サービスを幅広い業種の顧客企業に提供しております。

当第３四半期連結累計期間の売上高は96,499千円（前年同四半期は176,662千円）、営業利益は8,786千円（前年同四半期は31,984千円）となりました。

④ 医療施設・設備貸与事業

当事業は、前第２四半期連結会計期間より連結子会社であるイー・キャッシュライフウェア株式会社が医療クリニック向けに、医療施設や設備の貸与を行っております。

本事業は、安定的に収益を計上しており、当第３四半期連結累計期間の売上高は128,992千円（前年同四半期は85,935千円）、営業利益は17,750千円（前年同四半期は5,879千円）となりました。

⑤ その他

当事業は、連結子会社である株式会社ロハス・インスティチュート及びイー・キャッシュライフウェア株式会社が販売する環境関連商品等の販売を「その他事業」セグメントとしております。

当第３四半期連結累計期間の売上高は6,734千円（前年同四半期は5,775千円）、営業損失は472千円（前年同四半期は営業損失11,389千円）となりました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における流動資産は166,970千円となり、前連結会計年度末に比べ37,679千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が12,090千円、受取手形及び売掛金が7,299千円、未収入金が15,370千円減少したことによるものであります。固定資産は196,709千円となり、前連結会計年度末に比べ34,914千円減少いたしました。これは主に有形固定資産が11,255千円、無形固定資産が15,081千円、投資その他の資産が8,576千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は、363,679千円となり、前連結会計年度末に比べ72,593千円減少いたしました。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における流動負債は37,446千円となり、前連結会計年度末に比べ24,840千円減少いたしました。これは主に買掛金が5,747千円、未払金が12,671千円、未払法人税等が3,258千円、加盟店預り金が1,299千円減少したことによるものであります。固定負債は19,000千円となり、前連結会計年度末に比べ2,000千円減少いたしました。これは長期借入金の返済によるものであります。

この結果、負債合計は、56,446千円となり、前連結会計年度末に比べ26,840千円減少いたしました。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産合計は307,233千円となり、前連結会計年度末に比べ45,753千円減少いたしました。これは主に四半期純損失44,593千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は81.4%（前連結会計年度末は78.1%）となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

業績予想につきましては、平成23年５月13日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、前連結会計年度において営業損失87,964千円、当期純損失155,636千円を計上し、当第３四半期連結累計期間におきましても、営業損失40,904千円、四半期純損失44,593千円を計上いたしました。

そこで当社グループは下記対策を講じ、当該状況の解消又は改善に向けて努めてまいります。

① 安定した売上の確保

・サービス事業への事業ドメインの移行

従来から売上の中心となっておりました受託開発案件から、安定的な売上を見込めるサービス事業へ中核事業を移行し、安定的且つ継続的に売上計上を図ってまいります。

・保守メンテナンス売上の安定的な確保

従来から安定的な売上計上をしている保守メンテナンス業務を継続的に行うことにより、安定収入を確保します。

・決済代行サービスを中核とした自社サービスの拡充

従来から安定的な売上計上をしている決済代行サービスを中核として、新サービスあるいは新機能の付加を行い、さらに自社サービスを拡充してまいります。

② 売上総利益率の改善

当社グループは、開発業務のうち仕様設計、品質管理などの工程は自社内にて行い、製品製造やプログラミング作業などの工程を協力会社へ外注をしてまいりましたが、その一部を内製化することにより、売上総利益率の改善を図ります。

③ 徹底した固定費の削減

当社グループは、外注費の削減を中心に、徹底した固定費の削減を実施して、収益性の改善を図ります。

④ 事業ドメインの選択と集中

当社グループは、従来からＲＦＩＤを中核技術として様々な応用分野への事業展開を図っておりますが、加えて、医療関連分野でのさらなる事業展開を図ることが、当社グループの今後の収益の柱となり得ると考え、中長期的に拡大の見込まれる付加価値の高い医療関連事業を当社の中核事業と位置づけ、売上と利益の拡大を図ります。

⑤ 経営資源の相互連携と活用

当社グループは、連結子会社である株式会社ディー・ワークス、イー・キャッシュライフウェア株式会社及び株式会社ロハス・インスティチュートとの相互による業務連携を深めることにより、ＲＦＩＤ技術、顧客データベース、集金代行スキーム、医療・環境分野でのノウハウ、ＬＯＨＡＳ商標など当社グループ企業の持つ経営資源を積極的に相互にグループ企業で活用することにより収益力の向上につながり、早期の収益改善に資するものと見込んでおります。

以上の方策を通じた収益性の改善により、安定した営業キャッシュ・フローを確保してまいります。

しかし、これらの対応策は実施途上にあり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

４．四半期連結財務諸表

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	84,341	72,250
受取手形及び売掛金	59,836	52,536
商品及び製品	22,158	22,109
未収入金	21,017	5,646
繰延税金資産	1,017	548
その他	16,506	14,114
貸倒引当金	△228	△236
流動資産合計	204,649	166,970
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	17,826	13,683
減価償却累計額及び減損損失累計額	△7,253	△5,475
建物及び構築物（純額）	10,572	8,207
工具、器具及び備品	30,012	28,271
減価償却累計額及び減損損失累計額	△18,636	△21,947
工具、器具及び備品（純額）	11,375	6,323
機械装置及び運搬具	10,048	10,048
減価償却累計額及び減損損失累計額	△2,512	△5,338
機械装置及び運搬具（純額）	7,536	4,710
リース資産	5,624	5,624
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,012	△2,024
リース資産（純額）	4,612	3,599
有形固定資産合計	34,096	22,840
無形固定資産		
ソフトウエア	9,676	10,043
のれん	106,277	88,955
その他	6,517	8,391
無形固定資産合計	122,472	107,390
投資その他の資産		
投資有価証券	5,770	5,770
敷金及び保証金	67,913	60,386
その他	1,404	337
貸倒引当金	△34	△17
投資その他の資産合計	75,054	66,477
固定資産合計	231,623	196,709
資産合計	436,273	363,679

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	17,320	11,573
1年内返済予定の長期借入金	3,000	3,000
未払金	18,604	5,933
未払法人税等	6,714	3,455
加盟店預り金	12,139	10,839
その他	4,507	2,643
流動負債合計	62,286	37,446
固定負債		
長期借入金	21,000	19,000
固定負債合計	21,000	19,000
負債合計	83,286	56,446
純資産の部		
株主資本		
資本金	686,197	686,197
資本剰余金	689,199	689,199
利益剰余金	△1,034,844	△1,079,437
株主資本合計	340,553	295,960
新株予約権	2,265	2,265
少数株主持分	10,168	9,008
純資産合計	352,986	307,233
負債純資産合計	436,273	363,679

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
売上高	330,452	259,059
売上原価	240,759	184,942
売上総利益	89,693	74,116
販売費及び一般管理費	166,337	115,021
営業損失（△）	△76,644	△40,904
営業外収益		
受取利息	2,556	7
その他	66	135
営業外収益合計	2,623	143
営業外費用		
支払利息	355	302
株式交付費	4,408	－
持分法による投資損失	12,535	－
貸倒引当金繰入額	－	136
その他	0	333
営業外費用合計	17,300	771
経常損失（△）	△91,321	△41,532
特別利益		
貸倒引当金戻入額	141	－
関係会社株式売却益	3,374	－
特別利益合計	3,515	－
特別損失		
有形固定資産除却損	11	－
投資有価証券評価損	42,741	－
特別損失合計	42,752	－
税金等調整前四半期純損失（△）	△130,558	△41,532
法人税、住民税及び事業税	4,111	3,751
法人税等調整額	△629	468
法人税等合計	3,481	4,220
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△134,040	△45,753
少数株主損失（△）	△262	△1,160
四半期純損失（△）	△133,777	△44,593

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
少数株主損益調整前四半期純損失（△）	△134,040	△45,753
四半期包括利益	△134,040	△45,753
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△133,777	△44,593
少数株主に係る四半期包括利益	△262	△1,160

（３）継続企業の前提に関する注記

当第３四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日）

当社グループは、前連結会計年度において営業損失87,964千円、当期純損失155,636千円を計上し、当第３四半期連結累計期間におきましても、営業損失40,904千円、四半期純損失44,593千円を計上いたしました。

そこで当社グループは下記対策を講じ、当該状況の解消又は改善に向けて努めてまいります。

①　安定した売上の確保

・サービス事業への事業ドメインの移行

従来から売上の中心となっておりました受託開発案件から、安定的な売上を見込めるサービス事業へ中核事業を移行し、安定的且つ継続的に売上計上を図ってまいります。

・保守メンテナンス売上の安定的な確保

従来から安定的な売上計上をしている保守メンテナンス業務を継続的に行うことにより、安定収入を確保します。

・決済代行サービスを中核とした自社サービスの拡充

従来から安定的な売上計上をしている決済代行サービスを中核として、新サービスあるいは新機能の付加を行い、さらに自社サービスを拡充してまいります。

②　売上総利益率の改善

当社グループは、開発業務のうち仕様設計、品質管理などの工程は自社内にて行い、製品製造やプログラミング作業などの工程を協力会社へ外注をしてまいりましたが、その一部を内製化することにより、売上総利益率の改善を図ります。

③　徹底した固定費の削減

当社グループは、外注費の削減を中心に、徹底した固定費の削減を実施して、収益性の改善を図ります。

④　事業ドメインの選択と集中

当社グループは、従来からＲＦＩＤを中核技術として様々な応用分野への事業展開を図っておりますが、加えて、医療関連分野でのさらなる事業展開を図ることが、当社グループの今後の収益の柱となり得ると考え、中長期的に拡大の見込まれる付加価値の高い医療関連事業を当社の中核事業と位置づけ、売上と利益の拡大を図ります。

⑤　経営資源の相互連携と活用

当社グループは、連結子会社である株式会社ディー・ワークス、イー・キャッシュライフウェア株式会社及び株式会社ロハス・インスティチュートとの相互による業務連携を深めることにより、ＲＦＩＤ技術、顧客データベース、集金代行スキーム、医療・環境分野でのノウハウ、ＬＯＨＡＳ商標など当社グループ企業の持つ経営資源を積極的に相互にグループ企業で活用することにより収益力の向上につながり、早期の収益改善に資するものと見込んでおります。

以上の方策を通じた収益性の改善により、安定した営業キャッシュ・フローを確保してまいります。

しかし、これらの対応策は実施途上にあり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

（４）セグメント情報等

Ⅰ　前第３四半期連結累計期間（自　平成22年４月１日　至　平成22年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他（注）１	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	ＲＦＩＤ事業	決済代行事業	マーケティング事業	医療施設・設備貸与事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	48,288	13,790	176,662	85,935	324,676	5,775	－	330,452
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	48,288	13,790	176,662	85,935	324,676	5,775	－	330,452
セグメント利益又は損失（△）	△10,451	1,620	31,984	5,879	29,033	△11,389	△94,289	△76,644

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療・環境関連商品等の販売事業等を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△94,289千円には、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失（△）と調整を行っております。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

第１四半期連結会計期間において、連結子会社であるイー・キャッシュライフウェア株式会社が持分法適用関連会社であったロハスカーボンＣＯ２研究所株式会社より医療施設・設備貸与事業を譲り受けました。この事業譲受により発生したのれんの一部について、内部取引であることから持分法適用関連会社の未実現利益と相殺消去しておりましたが、第３四半期連結会計期間においてロハスカーボンＣＯ２研究所株式会社が持分法適用から除外されたことに伴いのれんの消去が不要となりました。

このため、第３四半期連結累計期間の「医療施設・設備貸与事業」セグメントにおいて、のれんが19,560千円増加しております。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント					その他（注）１	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	ＲＦＩＤ事業	決済代行事業	マーケティング事業	医療施設・設備貸与事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	18,156	8,677	96,499	128,992	252,325	6,734	－	259,059
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－	－	－
計	18,156	8,677	96,499	128,992	252,325	6,734	－	259,059
セグメント利益又は損失（△）	8,175	2,283	8,786	17,750	36,995	△472	△77,427	△40,904

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社である株式会社ロハス・インスティチュート及びイー・キャッシュライフウェア株式会社が販売する環境関連商品等の販売事業等を含んでおります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△77,427千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失（△）と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（６）重要な後発事象
該当事項はありません。